

## 1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日平成20年10月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2774800581
法人名	医療法人 垣谷会
事業所名	グループホーム田井城の里
所在地	松原市田井城6丁目282番地2 (電話) 072-334-5311
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 9月 27日

## 【情報提供票より】(平成 20年 8月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算	16.5人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

## (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	約25,000円	
敷金	有( )円 ②			
保証金の有無 (入居一時金含む)	① (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	① / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500円		

## (4) 利用者の概要 (平成 20年 8月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	6名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.4歳	最低	72歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人垣谷会 明治橋病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が運営し、病院に入院されている認知症高齢者が退院後も住みなれた地域で安心して暮らしてもらいたいという思いで作られたホームです。認知症を正しく理解し対応することで「あたり前の生活」が実現でき、その考えを地域に還元して家庭での生活を支援していくという考えを大切にしています。職員の生き生きとした表情が利用者の方たちの表情に反映されています。管理者の熱い思いと熱心な指導力に職員が応える風土があります。利用者が遠慮なくものが言える雰囲気があり、全体に温かみを感じられるホームでもあります。家族との連携も大切にしており、一人ひとりの連絡帳を作成し、面会時にみてもらっています。人材の定着にも力を入れています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。「緊急時対応」「感染症」「認知症ケア」を含む研修を実施し、伝達研修も行っています。外部評価結果及び自己評価については市へ報告しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、職員全員で取り組んでいます。評価の意義についても、職員間で共有しています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議の規定も策定し、2ヶ月に1回開催しています。会議では、ホームの活動方針や運営状況、行事、利用者の生活ぶりについて説明しています。会議の参加者から地域の行事案内をもらい参加したり、参加者の意思によりサービスの改善につながった事例もあります。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 利用者一人ひとりの連絡帳を作り、面会時にみてもらっています。家族会も発足し、より家族との連携ができるようになりました。玄関横に、家族から出た質問に答える掲示のコーナーを作り見てもらっています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 「風通しをよくしたい」との思いから、地域との連携には積極的に取り組んでいます。地域の行事に参加したり、保育所園児の訪問を受けたりする等、地域との交流を図っています。

## 2. 調 査 報 告 書

(        部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「表現を受け止められる人になろう」という理念を管理者・職員が協働して作り上げました。認知症を正しく理解して対応することによって、当たり前の生活が実現できるという考えを大切にしています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化して事務所に掲示しています。また、管理者は職員に理念を共有するべく実践を通じて話し合い、会議でも理念に沿った介護ができているか確認しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	風通しをよくするとの考えで、地域との関わりについて積極的に取り組んでいます。運営推進会議の参加者より地区の行事を教えてもらって参加したり、地域の保育所からハロウィン等の行事で訪問を受けたりする等、地域とのつながりや理解を深める活動に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果で示された点については改善しています。今回の自己評価は、管理者と職員全員で取り組みました。外部評価の意義や目的を職員全員が理解し、評価受審後はサービス向上に活かしたいとの思いを管理者・職員が共有しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定も作成され、2ヶ月に1回開催しています。家族の参加により協力的な会議になっており、会議で出た意見がサービスの改善に結びついた例もあります。外部評価受審の結果に関しても会議で報告しています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは日頃から相談できるよう窓口を確保しており、何かあれば相談しています。運営推進会議には市職員にも積極的に参加してもらっており、会議終了後には時間を作り意見交換しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	頻繁に来訪される家族への報告だけでなく、面会に来られない遠方の家族に対しても手紙で近況を伝える工夫をしています。また、利用者一人ひとりの「連絡ノート」を作り、日々の様子を伝えるようにしました。金銭管理に関しては個別の小遣い帳に記載し、定期的に残高・収支の報告を家族へ行き、承諾を受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、家族交流会も開催しています。アンケートで意見の収集を行い、また玄関先に意見箱も設置しています。家族から出た質問に対して、Q&Aコーナーを設置して開示しています。今後は苦情や要望に関しても情報開示していく予定です。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最低限に抑えることに力を入れて、馴染みの関係を維持できるように努めています。管理者は、働きやすい職場環境作りや人材育成に努力しています。新しい職員が入るときは、業務マニュアルによって、スムーズに働けるように工夫しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には職員が順次に参加し、伝達研修も行っています。前回の評価結果で示された自己として、評価後改善し「緊急時対応」「認知症」「感染症」について研修を実施しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入しており、他市町村のグループホームとの交流の機会があります。現在は管理者のみ出席していますが、今後は職員も出席し、他事業所との交流の機会や勉強会の開催を検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して納得した上で利用してもらえるように、入居の際は体験入居をしてもらっています。また、入居までに面接・相談の機会を多く持ち、馴染みの関係を構築できるように工夫しています。利用者理解のシート作成には、家族の協力ももらっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は同じ生活空間で生活する関係を大切にしています。利用者から料理や着物の着付けを習ったり、利用者の得意なことを尊重したり、職員は利用者に敬意をもって接しています。利用者に対して「教えていただくことばかりです」との言葉が職員から自然に出ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや希望についての把握に努めています。理念の「表現を受け止められる人になろう」を実践することで、気づきが生まれました。利用者の買い物の希望、毎日入浴、飲酒、喫煙等、希望に応えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別ケアを実践するための介護計画を作成しています。介護計画作成に際して、家族の希望を聞き取る配慮もしています。カンファレンスも開かれています。職員間だけの話し合いになっています。	○	利用者がより良く暮らすために、利用者や家族にカンファレンスへ参加してもらってはいかがでしょうか。また利用者や家族の思いや希望がより反映された介護計画の作成が求められます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、定期的に行っています。状態の変化が生じた場合には、その都度見直しを行っています。本人・家族・必要な関係者とともにカンファレンスを行う場は持たれていません。	○	カンファレンスの出席者を拡大し、利用者や家族の希望・思い、職員の気づきや意見が介護計画に反映され、その人らしさを支える介護計画の作成が求められます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合がつかない場合の通院介助、外出への付き添い等、生活の継続が図れるように支援しています。また、地域の方の認知症に関する相談窓口も開いています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がそれぞれ希望する、かかりつけ医師で引き続き医療が受けられるように、契約時には受診状況を聞き取り、利用者・家族の希望を尊重した支援を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化した場合の対応については、医師、看護師、介護職員、家族と共に話し合い、意見を確認しながら支援の方針を決定し、情報の共有も行っています。現在は終末期の看取りの実施はありません。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては書面で確認し、大声で個人のプライバシーに関する話をしない等、職員一人ひとりが利用者の誇りを傷つけない配慮をしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、急かすことなく、個人のペースを大切にしています。利用者が、自分の思いやしたいことを自由に表現できることを大切にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	デイサービスが併設されており、昼食はデイサービスの厨房で作られたものを利用者と一緒に盛り付け、食後は下膳、食器洗い等、それぞれの役割分担を行っています。食事の品数も多く、和やかな雰囲気があります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を尊重した入浴支援を行っており、毎日入浴を楽しむ利用者もいます。しかし、若干名のみ週3回入浴ができていない利用者もいるため、今後はさらに週3回以上入浴を楽しめるような支援が望まれます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居の際には生活歴を詳細に記録しています。そして利用者一人ひとりの能力に応じた役割分担があり、併設のデイサービスの利用者と一緒にカラオケを楽しむ利用者もいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど毎日外出できる体制です。地域の行事への参加や散歩等、必要に応じてできるだけ多く外出できるよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの入り口は正面ではなく奥まっているところにあり、事務所からも目の届きやすい場所に玄関があります。1階は自由に出入りできますが、2階はテンキーで施錠しており、暗証番号がわからない利用者にとって自由に出入りができない状況です。	○	職員の体制が充実している時間帯には、入り口を開錠するなど、職員間で安全性を確認した上で開錠に向けた工夫が求められます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回、消防署の協力を得て実施しています。災害マニュアルも作成しています。非常食や水などの非常時物品は、法人本部に用意されています。	○	非常用食品や備品は、法人本部に保存されていますが、今後はグループホームとしての保存・管理が求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分摂取量については、個人のケースファイルに詳細を記載しています。しかしその日の過ごし方なども記載しており、やや把握しにくい面もあるため、記録の仕方について工夫することが望まれます。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下幅やリビングが広く、日当たりも良い為、全体にゆったりとくつろげる空間となっています。車椅子対応のトイレも別に設けてあり、利用者が過ごしやすいよう配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとたんすは全居室に同じものが用意されています。また各居室にはそれぞれの好みの飾り物や家具もあり、個性のある部屋で利用者が安心して過ごせる場所となっています。		